



みなづき がつ 水無月は6月なのに、 どうして水が無い月なの

きゅうれき がつ いま がつ みず きせつ 旧暦6月は今の7月、水のかれやすい季節

みなづき きゅうれき がつ いま たいようれき がつ きゅうれき がつ いち
 水無月は旧暦では6月だが、今の太陽暦では7月にあたります。この旧暦の6月は、一
 ねんじゅう あつ きせつ しょうしょ たいしょ がつ お あつ なつ お
 年中でもっとも暑い季節で、小暑や大暑があり、6月が終わると暑い夏も終わりというこ
 とになりました。「納涼大会」というのは、いま がつ ぎょうじ
 のうりょうたいかい 今では、だいたい8月の行事になっていますが、
 きょうと しじょうがわら えど すみだがわ みなづき きゅうれき がつ ぎょうじ
 このころは京都市は四条河原、江戸は隅田川でにぎわった、水無月(旧暦6月)の行事でした。
 みなづき みず まなつ きせつ
 したがって「水無月」というのは、水がかれやすい、真夏の季節であったからとされています。

「みなづき」は「水の月」か

しかし、実際にはいろいろな説があり、たとえば、はる のうじ じき
 じっさい せつ 春の農事がこの時期にはほとんどし
 つくされてしまうので、「みなしつき」といったのが誤って、みなづきとよばれるようにな
 ったとか、さなえ ね せつ
 早苗が根づいたから、そうよばれたとかの説があります。そのほか「みなづ
 き」の「な」は「の」の意味であって、「水の月」であるとか、「すいでん みず ひ
 つき
 いけない月」であるともいわれます。(監修・保岡 孝之)

